

Jane S. Bastien 女史来日

全く違うピアノ教授法のイメージ

笑顔でこなしたハードスケジュール

9月15日来日したジェーン・バスティン女史は、通訳の井上先生、全日本ピアノ指導者協会の福田先生とともに全国各地をまわって公開講座、個人レッスン、講演を行なった。連日のきついスケジュールにも笑顔をたやさずそのていねいな教授法とバスティンメソッドの効果については各地の参加者から非常に好評を博した。東北ではPTNAのオーディション予選の審査員、取手では市長とあいさつもした。バスティンメソッドはとくに幼児むけの教材としては音楽全般の内容を含み、多くのレスナーの関心を集めている。今回も朝日新聞が記事をのせたこともあり、全国的な反響が大きかった。



TOKYO



SHIZUOKA



TORIDE



TAKAMATSU



CHIBA

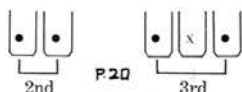
9月30日バスティン研究会より
 ピアノレッスン プリマーの使い方
 PIANO LESSONS PRIMER LEVEL
 by J. BASTIEN
 第一生命ホールにて収録



ピアノレッスン プリマーのユニット1～3までは五線譜なしのリズム譜でできている曲が入っています。ユニット1の行き方はベーリーヤングピアニストと同じに指番号から始めています。P10になると3つの黒鍵を使った曲が出てきて、先生と一緒にデュエットします。P12になるとすぐみんなが知っている曲が出てきて、二つの黒鍵を加えて五つをひとかたまりのようにひかえます。そして左手でも弾いてみます。

ユニット2になるとアルファベットの音名をのぼりおりして覚えます。P16～P17は白鍵の位置を覚えます。そしてP18で五本指のポジションがここに入って来ます。P19でスキップ(3度)の曲を弾かせ、P20ではもう音

Examples of White Key Intervals



程ということを出しています。1度, 2度, 3度と数えさせ、P23ではGの調に入ります。P26は1の和音の導入です。ここでは今までのようにリズム譜による曲は多く入っていません。というのはこの本を始める子は指のコントロールが出来ることを前提にしているからです。

ユニット4で大譜表を入れてどうやって五線譜を読むかということを教育します。五線譜を導入する時はカードを利用することになっています。このフラッシュカードの主眼は楽譜の音符とピアノのどこの場所かを把握させるものです。どこの位置かはカードの裏に書いてあり、自分でも確かめることができます。臨時記号のカードや音程を覚えるためのカードがあります。これらのカードを止めてある三色のゴムは、緑のGo!という意味でもっと勉強しましょう。青が一番よくできた時にまとめるものです。ややよく出来ましたという時に赤を使います。

子供は独習する時に自分の知っているものからやり始めます。このカードをレッスンごとに必ず持ってきて、家でもこれを使って勉強するように言います。例えば、P34の楽譜の音をカードから選んでみましょうというような事をします。P35ははじめての五線の曲です。初めに音名を言わせてから弾かせます。手をたたき、リズム

Hide and Seek
 Position: G P.35

をかぞえ、歌わせます。その次に両手の場所を捜させます。見つかったら、楽譜を見て音名と音程を言いながら弾かせます。(例—G up second A up second B, B down second A down second G) 五線譜の曲ははじめにGの調から始めます。

ユニット5でCの調になります。P44になるとフレーズということが出て来ますが、初歩の段階なので難しく考えなくていいのです。必要な要素を早くから入れ何回も練習させます。学習というのはかけっこのように一直線に走るものではなく、行きつ、もどりつというようにいつも復習していかねばならないと思っています。P47の曲はアメリカの子が好んで弾く曲です。P53は中央のCから弾き出すポジションです。P59になりますと、

A Little Blue
 Position: Middle C P.59

#とを入れます。この曲では現代風にアレンジしてみました。が、とても今の子供たちは喜んで弾きます。

この本は全体が四つに分れていて、プレリーディング(読譜前)、Gの調で五本指の場所で指を見ないで弾く、Cの調の読譜、最後が中央のCのポジション全体を通じて鍵盤への導入となります。ピアノライブラリーレベルIはグループIの調だけ使われ、レベルIIはグループ2の調になります。